

カリフォルニアの風

第5号 令和8年8月18日発行
サンフランシスコ日本語補習校
校長 相澤 順

夏の経験を力に、新たな一歩を

長い夏休みも終わりに近づき、補習校の授業が再開します。皆さんは、この夏をどのように過ごされたでしょうか。私は休暇中にロッキー山脈を巡る機会がありました。雄大な自然に心を打たれる一方で森林火災の跡や年々小さくなる氷河の様子に触れ、地球温暖化が私たちの暮らしに及ぼす影響を改めて実感しました。子どもたちがこれから生きる未来のためにも、一人ひとりが自然を大切にする心を育てていきたいと感じています。

さて、子どもたちはそれぞれ充実した夏休みを過ごし、多くの思い出を胸に学校へ戻ってくることと思います。その一方で、生活リズムがまだ整っていなかったり、宿題が気になって少し気持ちが重かったりするお子さんもいるかもしれません。ぜひ保護者の皆様には、「久しぶりの学校だね」「少しずつ慣れていけば大丈夫」と温かく背中を押していただければ幸いです。

本校は週に一度の学びの場です。初日から普段どおりの調子が出なくても、心配はいりません。二回目、三回目の授業を迎える頃には、少しずつ学校生活のリズムを取り戻していくことでしょう。教職員一同、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、安心して学べる環境づくりに努めてまいります。実り多い再スタートとなるよう、ご家庭のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

6月15日～20日の集中学習期間（特別プログラムの授業）を終えて

今年度も集中学習期間には4校それぞれ工夫を凝らした「特別プログラム」の授業を織り交ぜながら実施いたしました。子どもたちが、毎日友だちと会える喜びや、協働して取り組む学習や活動に理解の深まりを感じて、楽しそうに過ごしている様子を今回もたくさん見ることができました。

以下、各校の主幹より、集中学習期間（特別プログラム）の総括コメントです。

【幼小部サンフランシスコ校 岩崎主幹より】令和8年度は運動会の翌週に、「クラレンドン校」に移転しました。初日の全校朝礼で、こんな問いかけをしました。「みんなが大事にしているものを、『また貸してあげてもいいな』と思えるのはどんなときですか？」すると、一斉に勢いよく手が挙がりました。「きれいに使ってくれたとき。」「ちゃんと返してくれたとき。」「校舎もまったく同じですね。みんなが毎年大切に使ってきたからこそ、今年もこうして気持ちよく貸していただけた。感謝の気持ちを込めて、今年も大切に使って次の学年へつなげましょう。」そんな約束から始まった今年度の集中学習は、どこか一層引き締まった、温かい空気感に包まれていました。

特別プログラムでは、今年も先生方が趣向を凝らした授業を行い、子どもたちの「わかった!」という笑顔や、「そうなの!？」という驚きの表情をたくさん見ることができました。

3年生では、さまざまな単元で問題づくりを楽しみました。自分で作った問題を誰かに解いてもらいたくて、みんなうずうず。会うとすぐに「問題やりたい?」と声をかけてくれました。問題の種類も、漢字、算数、グラフなどさまざまです。こちらが「うーん、難しい!」と唸ると、それを見ている子どもたちはなんとも嬉しそうな顔。自分で考えた問題を通して、誰かに「考える楽しさ」を味わってもらえることが、何より嬉しかったのでしょう。

自分の作品を持ち帰った集中学習の最終日。帰りの車の中で、早速おうちの方に「これ、解いてみて!」とチャレンジしてもらった子も、たくさんいたに違いありません。

毎日顔を合わせ、共に考え、学び合う。そんな何ものにも代えがたい、特別な時間を過ごすことができた集中学習でした。



【幼小部サンノゼ校 小島主幹より】この夏の特別プログラムは、学年やクラスを越えて「切磋琢磨」を経験できる5日間となりました。どの学年でも、先生方の準備やさまざまな仕掛けが実を結び、子どもたちの主体的な活動が毎日繰り広げられていました。自分の役割に責任をもったり、グループやクラスで協力したりする姿が、随所に見られました。普段の授業ではあまり話す声を聞かなかった子が友達に話しかけている様子、異学年の子どもたちが一緒に活動する姿、上の学年の発表を見て刺激を受け、その後の活動で「やる気スイッチ」が入る様子など、微笑ましい姿をたくさん見届けることができました。

この特別な時間は、子どもたち自身が「ああしよう、こうしよう」と相談し、工夫するきっかけにもなりました。中には、集中学習での経験が夏休みの課題への興味や意欲につながった活動もありました。幼稚部から6年生まで、それぞれの学年に合った学習や合同活動を通して、互いのよさを認め合い、学び合う充実した時間を過ごすことができました。

そして、最終日の発表を終えた子どもたちの表情は、達成感に満ちあふれていました。その一人ひとりの姿が、5日間の学びと成長を物語っているようで、見ている私たちの胸にも深く響きました。



【中高部サンフランシスコ校 牛島主幹より】中高部サンフランシスコ校では、ここ数年では珍しく校舎の移動がなく、普段使用しているLowell High Schoolを会場に集中学習（特別プログラムの授業）を行いました。

今年度は、最終日の球技大会を大きな目標に、その準備やチームTシャツ作りなどにも時間をかけました。出席人数の関係で、クラス合同でチームを編成したところもありましたが、普段のクラスの枠を越えて活動することで、新たな仲間とのつながりや一体感を育む機会にもなったようです。

学習面でも、集中学習ならではの授業が各教科で展開されました。国語科では、詩の鑑賞や創作、四字熟語のカルタ作りなど、普段の授業とは一味違った活動に取り組みました。特に高等部数学では、「高校数学で挑む人工知能」をテーマに、AIを活用したプロジェクトに挑戦しました。AIを使いこなしながら数学と向き合い、試行錯誤を重ねる生徒たちの姿が見られました。また、各学年・各教科でグループ活動を取り入れ、仲間と協力して作品を作り上げ、最後には互いに発表し合いました。

そして、集中学習の締めくくりは球技大会です。天候にも恵まれ、生徒たちは一週間の学習で蓄えたエネルギーを存分に発揮し、仲間とともに競技を楽しみました。また、審判を務めてくれた卒業生との交流も生まれ、世代を越えたつながりを感じる場面もありました。



学習に、創作に、そして仲間との活動に、思い切り取り組んだ一週間。生徒たちの活気と笑顔にあふれた、充実した集中学習となりました。

【中高部サンノゼ校 渡邊主幹より】中高部では、集中学習期間を活用し、卒業生との交流会を実施しました。

前半は、日本・中国・米国の大学を卒業して各地で働く先輩方とZoomでつながり、補習校での学びが、その後の進路選択や国際的なキャリア形成にどのようにつながっているのか、お話を伺いました。生徒たちは、先輩方の経験や進路に対する考え方に真剣に耳を傾け、心に残った言葉をメモしながら、自分自身の将来と重ね合わせて考えていました。

後半は、この地域で企業に勤務する傍ら空手道場を経営し、指導者としても活躍している卒業生をお迎えしました。仕事と武道を両立するために大切な心構えや、日々の鍛錬についてお話いただきました。続く演武では、技の一つ一つに込められた精神力や積み重ねてきた努力を間近に感じる、貴重な時間となりました。

Zoomでの交流や会場での演武の後には、生徒たちからも様々な質問が寄せられ、卒業生の皆さんには一つ一つ丁寧に答えていただきました。交流会後には、学んだことや感じたことを振り返りながら、卒業生一人ひとりに感謝のメッセージを作成しました。

「補習校の良さを改めて認識できた」「補習校に通っていて良かった」といった声も多く聞かれ、卒業生との交流を通して、これまでの学びを振り返るとともに、自分の将来について考える貴重な機会となりました。

